

三陸の海を放射能から守る
岩手の会

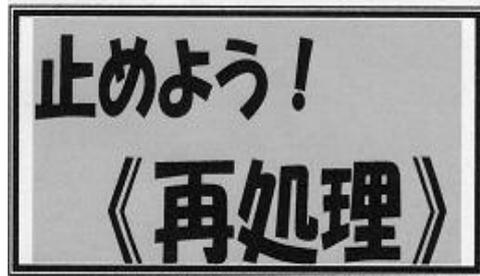
≡ニコ≡通信 第35号

<http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm>

《岩手の環境 / R I 廃棄物 / 再処理》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag

《まった再処理分庫》



2007 (平成19)年

3月 21日

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX

019-623-1636

郵便振替

02240-5-102650

県議会請願

《放射能を出さない》 《放射能除去装置をつけよ》

環境福祉常任委員会で「審議未了」となる 統一地方選後に再請願へ

「三陸の海を放射能から守る岩手の会」が提出した「海に、空に、放射能を流さないことを求めることについての請願」は、三月一四日の岩手県議会環境福祉常任委員会で審議されましたが、残念ながら「審議未了」となり、判断は統一地方選挙のあとに回される事になりました。

岩手県環境生活部は、請願に関わる事項について国（原子力安全・保安院）に問い合わせ、「国の見解」を資料として提示しました。国の見解は「除去装置は可能である」とする私たちの請願の趣旨を、正面から受けとめ納得させる内容ではありませんでした。常任委員会は、請願者の趣旨と、国の回答との相違点を明らかにした上でないと判断できないとし、今議会においては請願者の趣旨を吟味するための継続審議が時間的に出来ないが、再請願があれば審議出来る、としました



3月14日の岩手県議会と県庁

科学的批判に耐えられないの「国の見解」

「国の見解」には、これまで日本原燃などが繰り返してきたように、「住民の被曝量は〇・〇二二ミシーベルト以下」「クリプトンやトリチウムは人体に濃縮されず環境への蓄積もない」と断定的に明記されています。これらについては、国際的な研究動向、すなわち、自然界とは比較にならない高濃度の放射能の、環境での生物への影響、特に内部被曝を重視して被曝規制を強める動きがほとんど反映されておらず科学的な批判に耐えられるものではありません。

「除去装置」の技術は完成している

国の見解は、クリプトン85の除去装置について、「回収の技術開発は終了しているが、一方で回収した気体のクリプトンを安定して貯蔵するための金属への封入など固定の技術は、実験室段階の確認を終え実用化に向けた取り組みを行うなどまだ開発段階である」とし、トリチウムの回収技術については、「現在実用化さ

れた技術はない」としています。しかし、日本原子力研究開発機構の技術報告には「クリプトン回収技術開発についてはパイロットプラント規模での技術開発を終了」と明記されています。トリチウムについても、「データベース・原子力百科事典」（独立行政法人科学技術振興機構が運営）によれば「再処理施設について、日本原子力研究開発機構が・・・レーザーによる水中トリチウムの分離が技術的に可能な事を実証した」とあります。

このように可能な除去技術を導入せず、大量のトリチウム、クリプトンを全量、環境に放出しながら再処理を進める姿勢は水銀を垂れ流し被害を拡大させた水俣病の教訓に学ばない犯罪的な行為ではないでしょうか。

但し、見解には「日本原燃はトリチウム、クリプトン等の回収・固定化貯蔵、保管技術については、今後の研究開発の成果を考慮しつつ、その適用可能性の検討を行うこととしている」という文言があり注目されます。

「審議未了」の経緯

今回、常任委員会は、請願を「審議未了」としました。その理由は、請願の趣旨が「環境へ放射能を全く放出しないこと」と読めるが、それは国の原子力政策は成り立たないのではないかと、その辺を請願者に質し常任委員会としての整合性を判断する時間がほしい。会期末で時間がないので「審議未了」とする。結論を出さなかったため、次期会期に再請願があれば審議出来る、というものでした。

再処理工場も原発と同じく規制するべきだ

私たちの請願は、国の原子力政策や再処理について、少なくとも環境へ放射能を出さないことを建前とする「原発並み」の規制値を求めています。「同じ放射能なのだから、再処理だけを特別扱いせず、同じように規制するべきだ」と主張しているのです。

「下北の海」は既にトリウムが濃いときには一般原発の規制値の四〇〇倍もの濃度で流されています。「国の見解」は、住民への影響を様々な

経路によって見積もったところ〇・〇二二ミシーベルトと評価され安全」としていますが、この「見積もり」が正しいという保障はどこにもありません。一刻も早く放射能放出をやめさせましょう。

遠野市議会
「放射能海洋放出規制法（仮称）」制定
請願を採択

「豊かな三陸の海を守る会」の呼びかけにより、沿岸市町村を中心に採択の進んでいる「放射能海洋放出規制法」（仮称）制定を国へ求める請願が、三月八日、遠野市議会でも全会一致で採択になりました。県内三五市町村中十箇所目となります。

昨春秋、原子力発電環境整備機構（NUMO）による高レベル放射性廃棄物のボーリング調査が極秘に行われ

六ヶ所村ラプソデー遠野上映会
404人の入場者
20人のスタッフ大活躍



ようとしていた遠野市この一件以来、遠野市内では急速に再処理事業への関心が高まっています。市民有志による学習会も度々開催され、それに参加した市議会議員さんの尽力により今回の運びとなりました。

幸い調査は中止となりましたが、今後沿岸・内陸の架け橋として、遠野市内の動きは大いに期待されるのではないのでしょうか。（T）

ボーリング調査の一件を受け、より多くの人に事実を知ってもらおうと、市内で環境活動に取り組み遠野エコネットから声が上がったのがきっかけです。エコネット代表の千葉和さんが実行委員長となり、二十名近いスタッフが集まりました。遠野パージョンのチラシを独自に作成したり、駅や高校の前でチラシを配ったりするなど、一人一人の地道な努力が功を奏し、一日三回の上映で合計四〇四人の入場者がありました。

六ヶ所再処理工場で
混合溶液二重注入事故

日本原燃は11日、同社六ヶ所村の使用済み燃料再処理工場のプルトニウム・ウラン混合脱硝建屋で、プルトニウム・ウラン混合溶液中の硝酸や水分を蒸発させて出来た混合酸化物の容器に、誤って再び混合溶液を注ぐトラブルがあったと発表しました。この事故について「一步誤れば、臨界事故に繋がり兼ねない事故」として、全国各地の市民団体から厳しい批判の声があがり、65団体連名で日本原燃に抗議文を送りました。青森原水禁など三団体も抗議を申し入れました。

三月四日（日）遠野市民センター大ホールにて映画「六ヶ所村ラプソデー」の上映会が行われました。

鎌仲監督からは、「地球上で限られたエネルギー資源のことを一人でも多くの人が知り、将来のあり方について、ともに

考え、話し合い、そして選択してほしい」というメッセージをいただき、各上映会の前に千葉委員長が読みあげました。

アンケートも様々な世代の方からたくさんのご意見をいただき、市民の関心の高さが伺えました。印象深かったアンケートをひとつご紹介します。

〇〇〇〇
「賛成ではないと心の中で思っているけど、黙っていたら賛成と同じ」。今の私の立場はそれである。なぜ、そんな立場の生き方をしてきたのか。賛成ではないと心の中で思うことで反対しているふりをしていたから。具体的な反対行動をとるのが面倒くさいから。対岸の火事を見るように安全地帯の中から抜け出さずとしなかつたから。

ずるい生き方なんです。結局は、本気でなかつたのですよ。このままではいけないと自分では分かっているのに、安全地帯から出て行く勇気がなかつたのです。この映画は、私にあるきっかけを与えてくれました。ありがとうございます。（T・A）